

国立大学法人 長岡技術科学大学  
令和元年度第4回経営協議会議事要旨

日時 令和2年3月16日（月）14時55分～16時45分  
場所 KKRホテル東京【白鳥】  
出席者 東議長、天羽委員、大貝委員、五味委員、関委員、谷口委員、トラン委員、  
中野委員、鎌土委員、大石委員、秋山委員、和田委員、中出委員、湯川委員  
(議事の表決委任による出席 池田委員、磯田委員、合田委員)  
陪席者 齋藤監事、梅田附属図書館長、門脇システム安全専攻長  
事務局 総務部長、大学戦略課長、企画・広報室長、総合情報課長、総務課長、人事労務室長、  
財務課長、監査室長、財務課専門員、総務課総務係長、  
総合情報課IR推進・評価主任、総務課総務係員

議事に先立ち、東議長から令和元年度第3回議事要旨(案)について説明があり、案のとおり承認した。

審議事項

1. 令和2年度年度計画について

鎌土委員から、資料1に基づき説明があり、審議の結果、軽微な修正については学長に一任することとした上で、これを承認した。

主な質疑応答は以下のとおり。（○：学外委員からの質問、意見等 ●：大学からの回答）

○第3期中期目標・中期計画期間は、残すところ2年となる。中期計画に掲げている数値目標の達成の見通しと、達成のための方策はあるか。

●当初に掲げた数値目標はかなり高く設定しており、達成までは厳しい状況である。現在、高い目標になるべく近づけるために若手女性教員の採用や留学生の短期受入れなどの新たな仕組みを導入し努力しているところである。

○戦略性が高く意欲的な計画はそのプロセスも評価されるが、その他の計画は数値達成が一つの基準となるので注力してほしい。

○グローバル化の取り組みについて、外国の政府、研究機関等の予算を活用して、論文博士の制度などで共同指導ができるような仕組みを作ってはどうか。

●本学と海外の大学において共同で学位を与えるダブルディグリーの制度は、学生にとっては大変であるが、共同指導という形で、本学教員と海外大学の教員が二人で一人を指導することは可能である。

## 2. 新年俸制に係る規則制定等について

秋山委員から、資料2-1～2-3に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

## 3. 令和2年度長岡技術科学大学予算編成について

秋山委員から、資料3-1～3-5に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

また、参考資料により1月24日に文部科学省から伝達があった令和2年度長岡技術科学大学予算について、報告があった。

○来年度からの新修学支援制度の導入により、これまでの授業料免除制度の適用を受けていた学生の中で、今後免除を受けられない場合が出てくるが、その対策や影響について検討しているか。

●来年度予算については、文部科学省からの調査を受けて影響額を算出し、本年度と同様の対応ができる授業料免除枠が措置された。具体的な学生への対応は、これから検討する。

○来年度は措置されたが、今後、授業料免除枠予算は削減される可能性が高い。何らかの策を考えておく必要がある。

●企業からの寄付金やランプ会など、学生を応援する仕組みを充実させたい。

## 4. 目的積立金実施事業について

秋山委員から、資料4に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

## 5. システム安全専攻の改組について

学長及び門脇システム安全専攻長から、資料5に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

○一般的に「システム安全工学」とは何かがわかりにくい。他大学にない本学の特色ある取り組みなので、わかりやすく広めてほしい。

●本学は以前から「経営」の観点を取り入れて教育を行ってきた。特にシステム安全専攻は社会人（企業人）を対象としており、経営もわかる指導的技術者を育ててきた。

「システム安全」とは何かをわかりやすくアピールしていきたい。

○企業では社内における安全の仕組みづくりが重要であることは理解しているが、後回しにされているところもある。企業にもっと訴えかけてもらいたい。「システム安全」では何を学べるのか理解できれば、企業側にとっても教育する機会が増えると思う。

○システム安全工学専攻では本学が進めている「技学」とどのように繋がるか。また、その教育システムを修了するとどのような企業人になるのか、ロールモデルを示すとわかりやすくなる。

報告事項

**1. 大学機関別認証評価の評価結果（案）について**

鎌土委員から資料6に基づき、報告があった。

**2. 次期経営協議会委員について**

学長から資料7に基づき、報告があった。

**3. 令和2年度経営協議会開催日程について**

事務局から資料8に基づき、報告があった。

その他

学長から新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止等にむけた本学の取組について、報告があった。

以 上